

Case1

すべてはQOL向上のために ～三重中央医療センターの 早期リハへの取り組み～

三重県のほぼ中央にある三重中央医療センターは県内有数の規模を誇る病院ですが、「早期リハビリテーション」（以下、早期リハ）の指標の結果は計測対象施設で最下位（2014年）。医療者としての意地ともいえる試みがスタートしました。

指標が突きつけた現実と問題点

開口一番、「まさか」という思いで、かなりショックでした」と霜坂辰一院長。

霜坂院長は正直、指標のような数字はどこか偏差値のようで違和感を抱いていました。県内では早期リハの対象となる



脳梗塞や脳出血の治療には実績があり、しかも霜坂院長の専門は脳卒中。なのに突きつけられた数字は、早期リハの領域で改善すべき点を如実に示していたのです。

同院では2015年度から医療の質向上委員会を立ち上げ、さっそく指標の分析に取り掛かりましたが、やはり最優先は早期リハの改善。実際に数字を分析すると、確かに他の病院と比べ足りない部分が具体的に見えてきたといいます。当時を振り返って霜坂院長は「まさに“井の中の蛙”でした」。



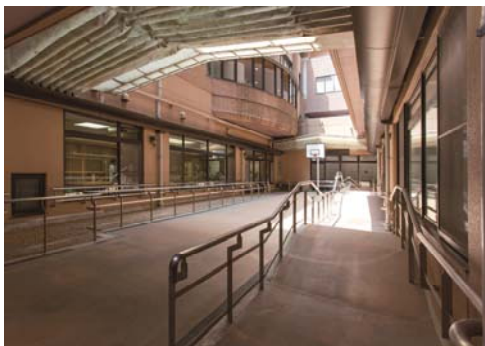
問題点は、早期リハが必要な患者さんが運ばれてきた場合、リハビリは脳神経科医→リハビリ科→理学療法士の順で指示を出していたこと。経由する過程が多いため、入院からリハビリを開始するまでに時間がかかっていたのです。そこで同院では、早期リハが必要な患者さんが搬送されると分かった時点で、担当科から理学療法士に直接指示する体制に改めました。週末などの入院で、リハ開始までに3日以上かかる場合もあったものを、3日以内での開始を可能にしたのです。

早期リハが必要な理由とその効果

早期のリハビリが必要な理由、それはできるだけ早期にリハビリを開始することで機能予後（治療後の後遺症に対する見通し）が良好になると考えられているからです。



ただ、ICU（集中治療室）に即入院で患者さんの意識がまだ回復していないような場合、リハビリとして四肢を動かすことに不安を覚えるご家族もいるといます。そこで同院では、機能予後が良くなると退院（転院）までの日数も短くなること、それが患者さんやご家族の経済的負担の軽減にもつながることなどを説明し、こうした不安解消に努めています。また、院内としても、いわゆるチーム医療として病院全体を巻き込むことができるのです。今では早期リハが必要な患者さんが搬送されると分かった時点で、チームでリハビリの指示が入っているか、条件反射的に確認するほど定着しています。2014年度は29.7%だった同院の早期リハの実施率は2015年度には69.0%に上昇し、最下位を脱出しました。指標は病院間の優劣をつけるものではありませんが、NHO全体で同じ定義で計測した指標を比較して改善点を見つけ、医療の質向上に取り組んでいます。



また、こうした改善を連携先の医師やスタッフが高く評価してくれているそうです。同院は急性期病院なので、容態が安定してくると患者さんの自宅に近い回復期病院に転院することになります。脳疾患では脳の細胞がダメージを受けているので、完全に回復することは難しいのですが（後遺症の問題）、早期リハが行われていると回復期病院でのリハビリに、より期待ができ、さらに入院期間が短縮できます。

「何よりも患者さんの退院後のQOL（生活の質）向上につながっているという実感。早期に一筋の希望を見出し、患者さんのご家族の頑張る意欲につながっているのです」と霜坂院長。

指標は信頼される病院への“道しるべ”

同院では「医療の質向上委員会」として既に別のテーマに取り組んでいます。霜坂院長は今後の展望について、次のように話しています。



「地域に貢献できるブランド化（高い信頼）された施設となれるよう、指標をその“道しるべ”として活用していくつもりです」

■[三重中央医療センター](#)（三重県津市）



三重県内では大学病院を除くと最大規模の高度急性期機能を誇り、年間4,000台以上の救急車搬送を受け入れるなど、ER型の救急体制を敷いている。また、立地を生かした災害医療対応にも取り組んでいる。